

経営比較分析表（令和4年度決算）

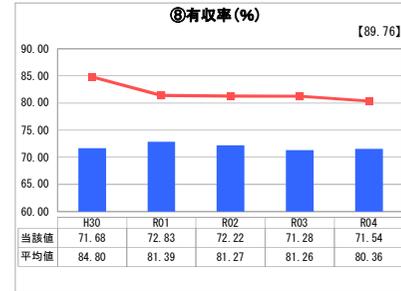
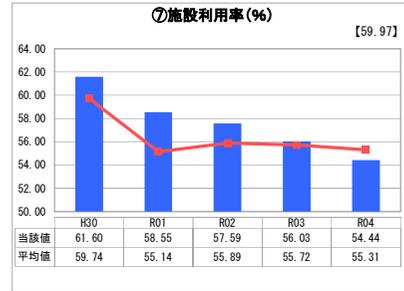
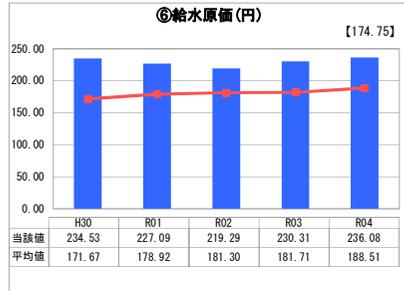
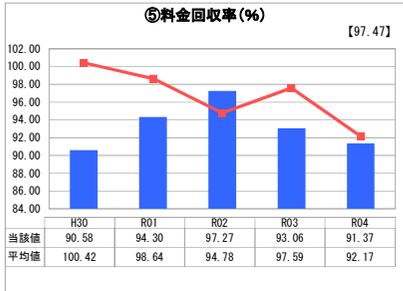
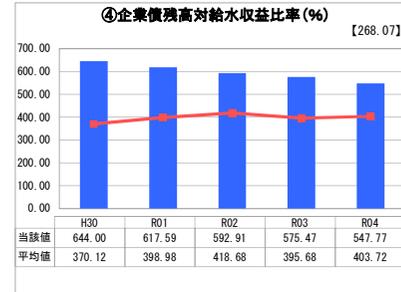
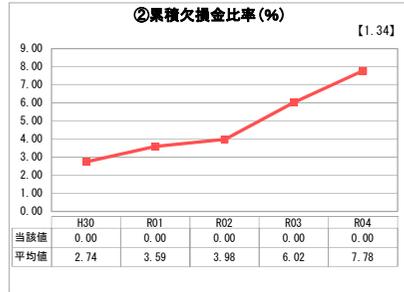
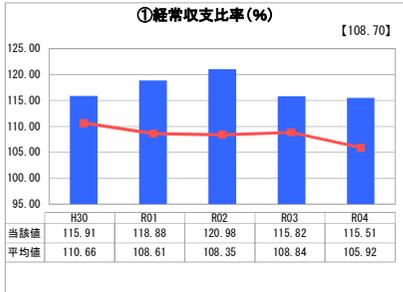
長崎県 対馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	69.63	99.93	4,230	

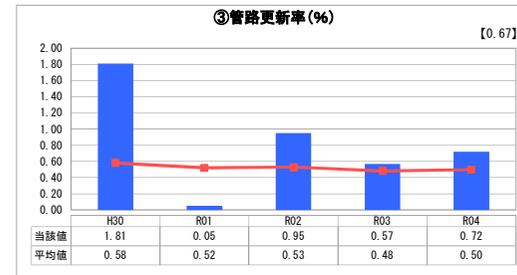
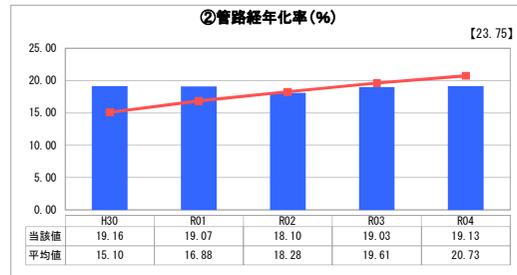
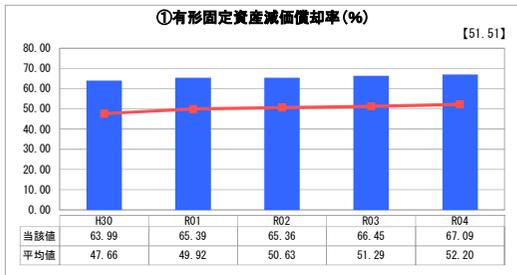
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
28,452	707.42	40.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,048	58.57	478.88

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は平均値及び100%を上回っており、経営状況は比較的健全な水準である。
- ②流動比率は平均値を下回っているものの200%以上を維持しており、短期的な支払能力は確保できている。
- ③企業債残高対給水収益比率は、平成29年度から簡易水道事業特別会計と経営統合したことにより、類似団体平均値よりも大幅に上回っているが、年々抑えられてきており、今後も健全経営に向け企業債残高削減に取り組んでいく。
- ④料金回収率は、100%を下回る状況が続いており、更なる経費の削減を図る必要がある。
- ⑤給水原価は、類似団体平均値を大幅に上回っており、更なるコスト改善が必要である。
- ⑥施設利用率は年々低くなっていることに加え、平均値を下回る稼働率になっていることから、施設更新にあたってはダウンサイジング等を検討する必要がある。
- ⑦有収率については平均値を大きく下回っており、管路の老朽化による漏水等への速やかな対応を行うなど有収率の向上に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 管路経年率は平均値を下回っているものの、有形固定資産減価償却率は高い水準となっており、全体的に施設の老朽化が進んでいる。
特に機械設備の老朽化が著しいため、管路更新と合わせ長期的視点に立って年次的に施設の更新を進めていく必要がある。

全体総括

対馬市水道事業においては、人口の減少と特に観光業への新型コロナウイルス感染症の影響により水需要(給水収益)の減少が続いている。
一方、営業費用については削減に取り組んでいるところであるが、老朽化した管路や寒波によって破裂した管の修繕は、例年、発生するため、給水収益の減少をカバーできるほどの削減はできていない。
さらには、施設の老朽化や、多様化する市民ニーズに応じた良質なサービスの提供など事業をとりまく課題が山積している状況である。
特に施設の老朽化については、限られた財源の中で対応していくために、施設規模の見直しなども含め計画的・効率的な水道施設の改築・更新や維持管理・運営、更新積立金等の資金確保方策を進める必要がある。